

和歌山工業高等学校（定時制）

実施日時	平成30年 9月 28日（金）2限～4限
参加者	生徒10名（1年生）、教職員5名 計15名
実施内容	救命救急講習（心肺蘇生法・AED）／和歌山市中消防署南分署 感想文／1年クラス担任

事前の取組

教頭が和歌山市中消防署南分署の担当者と電話連絡を取り、日程の打合せを行った。また、南分署を訪問し、担当者に会って救命救急講習等防災スクールの内容について打合せを行った。

主なプログラム

【救命救急講習（心肺蘇生法・AED）】

和歌山市消防局中消防署南分署の門阪直記氏、山野一郎氏、鳥居辰元氏の3名の講師をお迎えし、救急救命講習（心肺蘇生法・AED）を実施した。

最初に、門阪氏から学校のどこにAEDを置いているか知っているかなどの生徒に対する動機付けのお話があり、続いて他の2人の講師による心肺蘇生法とAEDの使用法の実演（デモンストラーション）を見せていただいた。

次に、生徒を男子6名と女子4名の2グループに分け、再度実習に向けた注意事項の説明があった。

ここで一旦10分程度の休憩を挟み、生徒たち一人ずつ、あるいは2人一組となって心肺蘇生法とAEDの使用法の実習を行った。初めは恥ずかしがっていた生徒たちも、徐々に実習に参加するようになり、胸骨圧迫時の力の入れ具合やリズム感を体験した。

生徒たちは、人の生命を救うことの重要性を感じ、全員真剣に取り組んでいた。



参加者感想文

- A 僕は、前から体験したことがあったので知っていました。実際、本当にあったら怖いし、ドキドキします。自分の身の回りに人が倒れていたら、冷静に判断して、119をして救急車を呼び、人を助けたいと思いました。
- B 倒れている人がいたら、これからは助けたいと思いました。
- C 実際、胸骨圧迫を経験してみて、すごく大変だったけれど、命が救われると思いました。
- D 倒れてる人がいたら、助けようと思いました。楽しかったです。



成果と課題

参加した生徒は救命救急講習（心肺蘇生法・AED）に真剣に取り組んでおり、特に実習をとおして生きた経験が積めたようである。一方、実習に取り組むまでに恥ずかしがり嫌がる生徒もいて、1年生で実施することの意義の確認や内容、方法の工夫が課題であると考えます。

参加した生徒は、今後職場や地域において、救命救急活動等にボランティアとして積極的に参加し、社会に貢献できる人材となることを期待している。